

	育てたい力	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 語彙を増やし、自分の考えを的確に表したり、豊かに表現したりすること。 事実と感想、意見とを区別して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 目的に応じて必要な情報を選んだり、論の進め方を考えたりしながら文章を読むこと。 自分の考えを伝え合うことによって広げたり、深めたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙を広げられるように、教師が使う言葉も、意図的に様々な言い方を使っていく。意味を教えるだけでなく、自分たちで辞書を引いて意味を確認させるなどしていく。 文を書くときに、事実と感想、意見とを色分け、行替えなどで区別し、文章構成を意識させて書かせていく。 文章全体を、説明的文章ならば意味段落分け、文学的文章ならば場面分けすることによって、どのような構造で文章全体が書かれているかに気付かせていく。 ノートに自分の考えをまとめていく際に、叙述のどこを根拠にしているか明らかにすることを意識づける。そのためにサイドラインを活用していく。 ノートには、自分の考えと友達の考えとを色分けして記させ、最終的に自分の考えがどのようなようになったのかわかるようにしていく。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料集やインターネットなどの情報を活用して、調べ学習をすすめ、答えを導き出すこと。 与えられた情報をもとに、社会の動きを考え、日本の生産業、工業について理解を深めること。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料集、インターネットの内容を一度全体で把握し、調べる指針を打ち出してから活動を行う。 必要な情報を集め、グループで情報を共有して、それを全体で発表し合うことで、考える視点を定め、そこから答えを導き出すという学習の流れを意識させる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする。 小数や分数の乗法や除法の計算を、日常生活に生かしたりすること。 立体に関心を持ち、単位と測定の意味を理解し、既習事項を生かして求積すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループで考えを発表し合う場面を設定したりなどして、友達の考えを聞くことにより、多面的に捉えていけるようにする。 小数や分数の意味をきちんと理解できるよう、繰り返し適用問題に取り組みせるようにする。 身近な構造物などを用いて、より正確に体積を求められるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を理解し、観察・実験に関する基本的な技能を身に付けること。 課題を追求していく中で、予想や仮説を基に解決の方法を発想すること。 課題に対し、主体的に問題解決していこうとすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察のポイントを伝え、何のために何を観察しているかの意識をもたせていく。授業前に必ず予備実験を行い、それに基づいて、安全な実験方法、実験器具の扱い方を指導していく。 既習事項を活用して、児童に課題解決のための実験方法を考えさせる。何を確かめるのかを常にはっきりとさせて取り組むようにする。 実験の結果から、考察できることを話し合い、まとめていくことで理解を確かなものにしていく。

<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に適した課題の解決の仕方を考えて、運動に取り組む。 運動の楽しさや喜びにふれ、技能を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを効果的に使い、自分の力を確認して、課題を解決できるようにする。同じくらいの力をもった友達と練習する場を設けて、話し合いながら練習方法を工夫できるようにする。 色々な場やルールを作り、ただ行うだけでなく、楽しみながら運動できる空間を設定する。 友達の良い動きを伝え合う時間を設定して、運動する楽しさを味わったり、技能を高めたりできるようにする。
<p>道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値を、よりよく生きる上で大切なことと理解していくこと。 道徳的価値を、自分のこれまでの経験や考え方と照らし合わせながら考え、自分の生き方について考えを深めること。 物事を多面的・多角的にとらえて考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間のめあてを明確にし、それに沿って発問、板書を整理していく。そのことによって児童の思考の流れをスムーズにしていく。 教科書の話だけにとどまらず、必ず自分自身に結び付けていけるように「自分だったらどうか。」という観点で考えをノートにまとめさせていく。 意図的な指名によって、対立する考えなどを出させ、意見交流する中で自分の考えをより深めていけるようにしていく。
<p>総合</p>	<ul style="list-style-type: none"> 八ヶ岳の環境、米作り、日本の食文化などについて自分で課題を立て、必要な資料を収集したり、体験活動を通してたりすることで、解決しようとしていくこと。 必要に応じて PC 機器を正しく扱い、資料収集や発表プレゼンテーションに役立てること。 調べたこと、分かったことを効果的な方法でまとめて発表していくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの学習の導入の仕方を工夫し、児童が自ら疑問や課題を見つけられるようにしていく。そのために、映像などの視聴覚資料などを活用していく。 インターネットの正しい使い方、情報収集の仕方、パワーポイントの使い方などの技術面だけでなく、ネットリテラシーなどモラル面も指導していく。 パワーポイント、新聞、ポスター、図、表など効果的な表現方法を伝え、自分でまとめ方かを選べるようにしていく。
<p>家庭科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ミシン、裁縫道具などの正しい使い方を覚え、簡単な小物を作ること。 栄養素などを知り、食事の大切さに気付いていくこと。 家族の一員として自分ができる家事に取り組んだり、お金の使い方を考えたりしていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用して、基本の縫い方、針や糸の扱いを分かりやすく示していく。玉結び、玉留めなど授業の中で繰り返し取り組ませ確実に習得させる。必要に応じ、学習をサポートする人的な支援も活用して個別の支援を行う。 視覚的な要素を取り入れて、5大栄養素を含む食品や、栄養の効果などを理解できるようにしていく。給食の献立表なども活用し日常生活の中でより理解を深めていく。 家族のために自分ができることは何か考え、意欲的に取り組んでいけるように課題提示を工夫したり、取り組みカードなどを作成したりしていく。
<p>音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら様々な音楽に親しむこと。 曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように表すか思いや意図をもつこと。 表したい音楽表現をするための技能を身につけること。 楽器を大切に扱ったり、挨拶をしっかりとしたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時のねらいを明確にし、個人の学習活動を保証すると同時にペア、グループ学習を有効に取り入れる。 個人の考える時間や全体での共有の時間を取りながら自分の考える表現に自信をもつよう導く。 運指表の掲示や机間指導を通して個々人の進度に気を配るようにする。 掲示物と声掛けを習慣化するようにする。

図工	<ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通して、造形的な視点を持ち自分なりに形や色などを捉えること。 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、発想や構想をし、主体的に表現すること。 これまでの経験や技能を活動に応じて活用すること。 親しみのある作品などを鑑賞し、自分なりに感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。 	<ul style="list-style-type: none"> 形や色からイメージをふくらませることができるよう、抽象表現にふれることのできる題材に取り組む。 自分の表したいイメージに近づけるよう、繰り返し試し作り変えることができるような題材や場の設定を行う。 既習の道具や材料については、活動に応じてできる範囲で児童からの申し出があれば使えるように用意しておく。 自分たちの作品の他、芸術家の作品にも触れる機会をもつ。対話式鑑賞を定期的に行い、鑑賞のおもしろさを感じることができるようにする。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 英語での会話や文章を聞いて、知っている単語を聞き取ること。 日常生活に関する表現を覚え、友達と簡単なやりとりをしたり、自分のことを発表したりすること。 アルファベットの大文字、小文字を活字体で書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教材やALTの言葉を聞かせるときに、必ずどんな単語が聞こえたかを意識させる。正しく聞き取れたことを賞賛し、自信と意欲につなげる。 チャンツ、ゲームなどを用いながら楽しくリズムよくフレーズを言えるようにする。 補助線入りのワークシートを用いて、大文字小文字を正しく書けるようにしていく。



成果○ と 課題▼	
国語	<p>○自分の考えや読み取ったことなどを、ノートに自分なりの工夫をしてまとめることができるようになってきた。友達の意見も色を変えて書きこみ、自分との比較をすることができるようになってきた。</p> <p>○文章全体を見通して考え、文章の構成を読み取れるようになってきた。</p> <p>▼全体での話し合いとなると発言者が限定されてきてしまうことがある。少人数での話し合いなどでは、活発な意見交換が見られるので、今後も交流の方法や多様な考えを引き出せる発問を工夫していく。</p>
社会	<p>○調べる観点を明確にすることにより、友達と協力して調べる活動に取り組むことができた。</p> <p>○学習の流れを決めることにより、見通しをもって全体で答えを導き合うことができるようになってきた。</p>

算 数	<p>○ ノートに自分の考えを書くという習慣を付けることで、学習への取り組みに意欲的な姿勢が多く見られるようになった。</p> <p>○ ペアなどで話し合いをし、友達の見解を聞くことで、様々な視点からみることができた。</p> <p>○ じっくりコースでは、机間指導をすることで、さらに学習内容への理解が深まりやすく、図形などをかく際にも、一つ一つを丁寧に仕上げられることにつながった。</p> <p>▼問題の意図を掴み、演算決定を正しくするために、今後も数直線図などを活用して定着させる。</p>
理 科	<p>○課題に対して、何を明らかにするのかを明確にし、比較検討するための「そろえる条件」「変える条件」などを考えさせていくことによって、児童が自分たちで実験そのものを計画できるようになってきた。</p> <p>○電磁石の学習では、実験セットを一人ずつ購入した。グループで協力し合って行う実験が基本ではあるが、一人一人持つことで、失敗も含めて、自分で考え解決していくということができた。</p>
体 育	<p>○学習カードを活用することで、自分の課題が明確になり、友達と協力して運動に臨むことができた。記録を付けていくことで、自分のめあてに向かって努力することができた。</p> <p>○児童に合った場を提供することで、自分のレベルに合った活動を積極的に行う姿が見られた。</p> <p>○友達の良い動きを伝え合う時間を設定することで、具体的な良い動きを共有することができ、全体で高め合うことに繋がってきた。</p>
道 徳	<p>○道徳用のノートを作り、自分の考えを書き記していったことで、道徳的価値に対して多様な考えをもてるようになってきた。</p> <p>▼授業で考えたことが実生活に結びついて振り返っていけるような手立てを工夫していく。</p>
総 合	<p>○年間を通して取り組んだ「レッツトライ米作り」の活動を通して、稲を育てる、米を使って鏡餅を作る、おはぎを作って食べるという体験ができ、他教科とも関連した横断的な学習をすることができた。</p> <p>○PCを活用して調べ学習をしたり、発表にプレゼンテーションソフトを活用したりして、年間を通してスキルアップを図ることができた。さらに、学習のまとめの方法の選択肢を広げることができた。</p>
外 国 語	<p>○デジタル教材の活用で、視覚的な効果もあり、自分の知っている単語を聞き取ることができるようになってきている。聞き取った単語を基に、おおまかな意味を考えられるようになった。</p> <p>○くりかえし同じフレーズを練習したり、語彙を増やすためのチャンツやゲームなどを取り入れたりしたことで、教師と児童の間だけでなく、児童間でもやりとりができるようになった。</p> <p>▼毎週2時間学習するようになった初年度なので、まずは聞く・話すを中心とし、児童の負担感を少なくしてきた。そのため書く活動は今後充実を図っていく。</p>
家 庭 科	<p>○ICTの活用により、玉結び、玉留め、運針、ミシンの使い方などが児童に分かりやすく伝わり、イメージをもって取り組むことができた。</p> <p>○カルタやカードゲームなど、児童が遊びながら学べるように工夫した教材を活用したことにより、児童が5大栄養素に関心をもつことができた。日常の食生活の中で栄養バランスを話題にすることが多くなった。</p>
音 楽	<p>○音楽会の発表を通して、学年全体で意欲的に合奏、合唱に取り組むことができた。3学期は卒業式の演奏に向けて、リコーダーや鍵盤ハーモニカ、二部合唱の練習に進んで取り組むことで、基礎的な演奏技能が身につくようになってきた。</p> <p>○鑑賞や歌唱学習を通して曲想を感じ取って自分の言葉で表し、このように表現したいという思いをもつことができていく。曲想を表す語彙の提示が有効で、児童の発言から提示を増やすことができた。</p> <p>▼思いを表現につなげるための技能の育成、友達と共感し、互いに高めあう活動を取り入れるなどの指導計画を組んでいく。</p>
図 工	<p>○製作がうまくいかない時に、繰り返し試す姿が多く見られた。また、友達同士で助言し、発想を出し合っていた。</p> <p>○既習の道具や材料を工夫して使う、組み合わせるなど、どの題材に対しても意欲的に取り組んでいた。</p> <p>○鑑賞活動に対しても意欲的で、熱心に作品を見ている。よく見よう、工夫やおもしろさを見つけようという意欲が高い。</p>

▼抽象表現のおもしろさを感じることができるよう、抽象題材の他に名画の鑑賞も取り入れつつ、いろいろな表現方法にふれる機会を増やす。